

令和4年度 国語科 1学年 年間指導計画・評価計画

《1》教科の目標
言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で正確に理解し、適切に表現する資質・能力を育成することを目指す。

《2》各学年・各分野の目標
1、社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。
2、社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う。
3、言葉が持つ価値を認識するとともに、言語感覚を豊かにし、我が国の言語文化に関わり、国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

《3》評価の観点及びその趣旨

知識及び技能	社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に親しんだり理解したりすることができるようにする。
思考力・判断力・表現力等	筋道立てて考える力や豊かに感じたり想像したりする力を養い、日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを確かなものにすることができるようにする。
学びに向かう力、人間力等	言葉が持つ価値に気付くとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。

《4》観点別評価の評価基準と評定

観点別 評価基準	A	十分に満足できる状況である。（80％以上）
	B	おおむね満足できる状況である。（50％以上）
	C	努力を要する状況である。（50％未満）

評定	5	十分に満足できる状況であるもののうちで、特に程度が高いもの。（90％以上）
	4	十分満足できる状況である。（80％以上90％未満）
	3	おおむね満足できる状況である。（50％以上80％未満）
	2	努力を要する状況である。（20％以上50％未満）
	1	一層努力を要する。（20％未満）

《5》指導上の配慮事項

- ① 単元など内容や時間のまとまりを見通して、その中で育む資質・能力の育成に向けて、生徒の主体的・対話的で深い学びの実現を図るようにすること。その際、言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、言葉の特徴や使い方などを理解し自分の思いや考えを深める学習の充実を図る。
- ② 必要に応じて、特定の事項だけを取り上げて指導したり、それらをまとめて指導したりするなど、指導の効果を高めるよう工夫する。
- ③ 「話すこと・聞くこと」に関する指導については、音声言語のための教材を積極的に活用するなどして、指導の効果を高めるよう工夫すること。
- ④ 「書くこと」に関する指導については、実際に文章を書く活動を重視する。
- ⑤ 「読むこと」に関する指導については、さまざまな文章を読んで、自分の表現に役立てられるようにすると

ともに、他教科等における読書の指導や学校図書館における指導との関連を考えて行う。

- ⑥ 言語能力の向上を図る観点から、外国語科など他教科等との関連を積極的に図り、指導の効果を高めるようにする。
- ⑦ 障害のある生徒などについては、学習活動を行う場合に生じる困難さに応じた指導内容や指導方法の工夫を計画的、組織的に行う。
- ⑧ 道徳科などとの関連を考慮しながら、国語科の特質に応じて適切な指導をする。

4月	朝のリレー 1時間 ◎音声の働きや仕組みについて、理解を深めることができる。(知・技(1)ア) ▼言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(主体的に学習に取り組む態度)	1	1 詩を通読する。 ・詩に登場する国や街がどんなところか、また、そこで、どんな人が何をしているのか、情景を想像しながら音読する。 2 詩を読んで想像したことや、好きな言葉や表現を交流する。 ・詩を読んで想像した情景や好きな言葉や表現などをグループで交流し、どのように音読すれば、詩のよさが伝わるかを相談する。 3 詩の特徴を生かして音読する。 ・詩のよさが伝わるように工夫して音読する。 ◇グループで分担し、「リレー」形式で読ませてみよう。	【知・技】音声の働きや仕組みについて、理解を深めている。(1)ア) →速さ、声の強弱、間の取り方、言葉の調子、声の高さを工夫しながら音読している。 【態】音声の働きや仕組みについて進んで理解を深め、小学校での学習を生かして音読しようとしている。
----	---	---	--	--

言葉に出会うために				
4月	言葉に出会うために 野原はうたう 1時間 ◎音声の働きや仕組みについて、理解を深めることができる。(知・技(1)ア) ▼言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(主体的に学習に取り組む態度)	1	「言葉に出会うために」を読み、目次や「学習の見通しをもとう」を使って、中学校での国語学習の見通しをもつ。 1 国語で何を学ぶのかを考える。 ・「言葉に出会うために」を読み、国語を学ぶ意味や言葉の価値を考える。 ◇今の考えを書き留めさせ、1年後にこの教材に立ち返ることで自己の変容を感じさせたい。 2 「野原はうたう」の二つの詩を通読する。 ・詩の作者である生き物になったつもりで、情景や心情を想像しながら音読する。 ・詩に表現された語句の意味に注意する。 ◇気に入ったところに印をつけたり、線を引かせたりしながら読ませる。 ◇詩人・工藤直子さんの「野原はうたう」に込めた思いを紹介するとよい。 →DVD・二次元コード 3 速さ、声の強弱、間の取り方、言葉の調子、声の高さを変えて音読する。 ◇声の強弱や間の取り方などを変えることで、印象が変わることに気づかせる。 4 学習を振り返る。 ・気に入ったところを、どのように音読したかをグループで話し合う。 ・詩を音読するとき、どんな工夫をするとよいか、「音読をするときには」に続く形で書く。	【知・技】音声の働きや仕組みについて、理解を深めている。(1)ア) →速さ、声の強弱、間の取り方、言葉の調子、声の高さを工夫している。 →情景や心情を表す表現に応じて、音読のしかたを工夫している。 【態】音声の働きや仕組みについて進んで理解を深め、小学校での学習を生かして音読しようとしている。
4月	声を届ける 書き留める 言葉を調べる 続けてみよう 4時間（話聞②書②） ◎音声の働きや仕組みについて、理解を深めることができる。(知・技(1)ア) ◎比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかた、引用のしかたや出典の示し方について理解を深め、それらを使うことができる。(知・技(2)イ) ◎読書が、知識や情報を得たり、自分の考えを広げたりするこ	1-2	1 音読・発表のしかたを理解する。 ・「声のウォーミングアップ」をする。 ◇聞き手を意識し、速さ、声の強弱、間の取り方、言葉の調子、声の高さに気をつけさせる。 →DVD・二次元コード ・教科書を読み、音読・発表のしかたや日本語の音声の特徴について理解する。 3 2 ノートの書き方、工夫のしかたを理解する。 ◇小学校のときのノートの取り方と比較させる。 3 辞典・事典で言葉を調べる方法を理解する。 ・辞典・事典の種類の種類と特徴を確認し、何を調べるときに役立つかを理解する。 4 「言葉の手帳」を作る。 ・印象に残った言葉や気になった言葉を、日付や感想とともに書き留めていくことを確認する。	【知・技】音声の働きや仕組みについて、理解を深めている。(1)ア) →聞き手を意識して速さ、声の強弱、間の取り方、言葉の調子、声の高さを工夫している。 【態】音声の働きや仕組みについて進んで理解を深め、小学校での学習を生かして声を届けようとしている。 【知・技】 ・比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかた、引用のしかたや出典の示し方について理解を深め、それらを使っている。(2)イ) →線や矢印で情報を整理している。 ・読書が、知識や情報を得たり、自分の

	とに役立つことを理解することができる。(知・技(3)オ) ◎目的や意図に応じて、日常生活の中から題材を決め、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすることができる。(思・判・表B(1)ア) ▼言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(主体的に学習に取り組む態度)		・最初の言葉を書き込み、その言葉との出会いや意味、使い方などを書いて、友達と交流する。 ◇線や矢印を使って類義語や対義語を書かせたり、用例を書かせたりしてもよい。 5 学習を振り返る。 ・相手に伝えるときに、どんなことに気をつけるとよいか、「声のウォーミングアップ」を通して気づいたことをまとめる。 ・友達とノートの交流をし、工夫できていることと改善点について話し合う。	考えを広げたりすることに役立つことを理解している。((3)オ) →これまでに読んだ本などを基に、印象に残った言葉を書き留めている。 【思・判・表】「書くこと」において、目的や意図に応じて、日常生活の中から題材を決め、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア) →日常生活やこれまでに読んだ本の中から題材を決め、情報を整理して「言葉の手帳」に書き込んでいる。 【態】進んで日常生活の中から題材を決め、これまでの学習を生かして「言葉の手帳」を作ろうとしている。
1 学びをひらく				
5月	シンシユン 4 時間 ◎事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)ウ) ◎場面の展開や登場人物の相互関係、心情の変化などについて、描写を基に捉えることができる。(思・判・表C(1)イ) ▼言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(主体的に学習に取り組む態度) ★物語を読み、考えたことなどを記録したり伝え合ったりする。(思・判・表C(2)イ)	1-2 3 4	「目標」や「学習の見通しをもとう」でねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 作品を通読する。 ・注意する語句・新出漢字を調べる。 2 作品の全体像を捉える。 ・初読の感想を簡単にまとめる。(学習①-1) ・登場人物は誰か、誰が語っているかを確かめる。(学習①-2) ・作品を場面に分け、それぞれの内容をおおまかに捉える。(学習①-2) ◇「誰が(誰と誰が) どうする(どうなった) 場面」という形で簡単にまとめさせる。 3 場面の展開に沿って、二人の関係の変化を整理する。 ・二人の関係が読み取れる表現を、場面ごとに表にまとめる。(学習②-1) ・二人の関係がどう変化していったのかを話し合う。(学習②-2) →P28窓「場面の展開に着目する」 →P264窓「文学的な文章を読むために」 ・「驚いた」などの心情を表す言葉を抜き出す。 →P29言葉 4 読み深めた感想を交流する。(学習③) ・読み深めた後の感想を200字程度でまとめる。 ・最初の感想と比べながら、どのように感想が変わったか、発表する。 ◇最後に作者のインタビュー動画を見せ、自分の感想と比べて、感じたことを発表させてもよい。 →DVD・二次元コード 5 学習を振り返る。 ・場面の展開に着目することで、何が捉えられたか、自分の言葉でまとめる。 ・小学校で学習した物語や小説の一つ取り上げ、あらすじを発表する。 →登場人物と、発端・山場・結末を意識してまとめる。	【知・技】事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。((1)ウ) →登場人物の心情や行動を表す言葉に着目して作品を読み進めている。 【思・判・表】「読むこと」において、場面の展開や登場人物の相互関係、心情の変化などについて、描写を基に捉えている。(C(1)イ) →場面ごとに会話や描写を整理して、登場人物の心情や関係の変化を捉えている。 【態】場面の展開について、描写を基に積極的に捉え、学習課題に沿って感想を交流しようとしている。
5月	【聞く】 情報を的確に聞き取る 1 時間 ◎比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかたについて	1	リード文や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 情報を的確に聞き取る必要がある場面を挙げる。 ◇自分の体験などを基に、要点を押さえて書き留めることの大切さを理解させる。	【知・技】比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかたについて理解を深め、それらを使っている。((2)イ) →5W1Hに注意して、キーワードとなる言葉を書き留め、番号や記号を用い

	理解を深め、それらを使うことができる。(知・技(2)イ) ◎目的や場面に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を整理し、伝え合う内容を検討することができる。(思・判・表A(1)ア) ◎必要に応じて記録したり質問したりしながら話の内容を捉え、共通点や相違点などを踏まえて、自分の考えをまとめることができる。(思・判・表A(1)エ) ▼言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(主体的に学習に取り組む態度) ★紹介や報告など伝えたいことを話したり、それらを聞いて質問したり意見などを述べたりする。(思・判・表A(2)ア)		2 ①の連絡を開き、メモを取る。 →DVD・二次元コード 3 効果的なメモの取り方を確かめる。 ・①の連絡について、自分のメモと教科書の例を比べて、気づいたことを共有する。 ・「上達のポイント」でメモを取るときのポイントを確認する。 4 ②の連絡を開き、メモを取る。 ・放送委員になったつもりで②の連絡を開き、必要な情報をメモに取る。 →DVD・二次元コード ◇3で確認した効果的なメモの取り方を、意識的に取り入れさせる。 5 学習を振り返る。 ・メモを取る意義や、効果的なメモの取り方について理解することができたか。	て整理している。 【思・判・表】 ・「話すこと・聞くこと」において、目的や場面に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を整理し、伝え合う内容を検討している。(A(1)ア) →日常の話題について、情報を整理し、聞き取る内容を考えている。 ・「話すこと・聞くこと」において、必要に応じて記録したり質問したりしながら話の内容を捉え、共通点や相違点などを踏まえて、自分の考えをまとめている。(A(1)エ) →情報を的確に聞き取り、要点を押さえてメモしている。 【態】進んで記録したり質問したりしながら話の内容を捉え、学習課題に沿ってメモを取ろうとしている。
5月	季節のしおり 春 ・事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)ウ) ▼言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(主体的に学習に取り組む態度)	ー	・桜にまつわる言葉や、春の情景を詠んだ歌詞や詩、短歌、俳句を味わい、伝統的な言語文化に親しむ。 ◇P68「詩の世界」、P186「助言を自分の文章に生かそう」、P220「構成や描写を工夫して書こう」などの資料として用いてもよい。 ◇春をテーマにした他の詩歌を探し、交流することもできる。	【知・技】事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。((1)ウ) →春に関わる言葉にふれ、それぞれの春の情景を想像している。 【態】伝統的な言語文化に関するこれまでの学習を生かして、積極的に語感を磨き、言語文化を大切にしようとしている。
5月	情報整理のレッスン 比較・分類 1時間 ◎比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかたについて理解を深め、それらを使うことができる。(知・技(2)イ) ▼言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(主体的に学習に取り組む態度)	1	1 学習の目的を理解する。 ・P32上段の導入の文章を読み、目的に合わせて情報を整理することの必要性を理解する。 2 情報を比較・分類する方法を確かめる。 ・①比較する(表)、②分類する(ラベリング)、③分類して比較する(ベン図)、④順序や流れを整理する(フローチャート)を確認し、情報整理の目的と、それに適した方法を理解する。 ◇図や表で整理された情報を見て気づいたことを、「比較に用いる言葉」や「順序を表す言葉」を使って発表させるとよい。 3 問題1～2に取り組む。 ◇分類後、グループで考えを交流させ、目的さえ達成できれば、整理のしかたや観点の立て方は多様であってよいことに気づかせたい。 4 学習を振り返る。 ・情報はどのように整理するとわかりやすくなるか、目的ごとにまとめる。 →P9「思考の地図」	【知・技】比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかたについて理解を深め、それらを使っている。((2)イ) →情報の整理のしかたを理解し、情報を比較したり、分類したりしている。 【態】学習課題に沿って、積極的に情報の整理のしかたについて理解を深め、それらを使おうとしている。

	え、要旨を把握することができ。(思・判・表C(1)ア) ▼言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(主体的に学習に取り組む態度) ★説明の文章を読み、理解したことや考えたことを報告したり文章にまとめたりする。(思・判・表C(2)ア)	2	3 段落の役割について考える。(学習②) ・十の段落が、それぞれ文章全体の中でどんな役割を果たしているか考える。 →P43窓「段落の役割に着目する」 →P266資「説明的な文章を読むために」 ・「これに対して」などに注目し、その前後の文や段落が、どのようにつながっているかを考える。 →P44言葉 4 考えたことを発表し合う。(学習③) ・わかりやすく説明するための筆者の工夫について、考えたことを発表する。 ◇題名の付け方、説明のしかた(問いと答え、比較、図など)に着目させるとよい。 5 学習を振り返る。 ・文章全体の中で、段落が果たす役割には、どのようなものがあつたか挙げる。 ・わかりやすく説明するための工夫のうち、自分が文章を書くときに使ってみたいものを挙げる。	→「問い」と「答え」から中心的部分を捉え、筆者の主張を理解している。 【態】文章の中心的部分と付加的な部分について積極的に捉え、学習課題に沿って筆者の工夫を伝え合おうとしている。
6月	ちよつと立ち止まって 3時間 ◎原因と結果、意見と根拠など情報と情報との関係について理解することができる。(知・技(2)ア) ◎文章の中心的部分と付加的な部分、事実と意見との関係などについて叙述を基に捉え、要旨を把握することができる。(思・判・表C(1)ア) ▼言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(主体的に学習に取り組む態度) ★説明の文章を読み、理解したことや考えたことを報告したり文章にまとめたりする。(思・判・表C(2)ア)	1 2 3	「目標」や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 本文を通読する。 ・注意する語句・新出漢字を調べる。 ・P50の吹き出しを参考に、共感・納得したところや発見・気づき、疑問点等を挙げる。 2 文章の構成に着目し、要旨を捉える。 ・全体を、大きく三つのまとまりに分け、本論を事例ごとのまとまりに分ける。(学習①-1) ・筆者の考え(結論)を基に、文章の要旨をまとめる。(学習①-2) →P50窓「文章の構成に着目する」 →P266資「説明的な文章を読むために」 3 文章の構成に着目し、その効果を考える。 ・本論の図が何を述べるために示されているかまとめる。(学習②-1) ・結論を導くために、序論と本論がどのような役割を果たしているかを考える。(学習②-2) ・「見る」ことに関する言葉を抜き出し、注目の度合いや、見る時間の長さの順に整理する。 →P51言葉 4 考えたことを伝え合う。(学習③) ・生活の中で、ものの見方や考え方が広がったと思われる体験や事例を発表する。 ◇最初にもった疑問は解決したか、また学習の前には気づけなかった、新たな発見や疑問があれば、友達どうして報告させるとよい。 5 学習を振り返る。 ・筆者は、なぜ私たちに「ちよつと立ち止まって、他の見方を試して」みることをすすめているのだろう。 →「ちよつと立ち止まって」という語句を使って書く。 ・要旨の捉え方についてわかったことを、自分の言葉でまとめる。	【知・技】原因と結果、意見と根拠など情報と情報との関係について理解している。(2)ア →筆者の主張と事例との関係を理解している。 【思・判・表】「読むこと」において、文章の中心的部分と付加的な部分、事実と意見との関係などについて叙述を基に捉え、要旨を把握している。(C(1)ア) →序論・本論・結論の段落のまとまりに着目し、要旨を捉えている。 【態】進んで要旨を把握し、学習の見通しをもって考えたことを伝え合おうとしている。

	に示されている漢字に加え、その他の常用漢字のうち300字程度から400字程度までの漢字を読むことができる。また、学年別漢字配当表の漢字のうち900字程度の漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。(知・技(1)イ) ▼言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(主体的に学習に取り組む態度)		→P302[資]「一年生で学習した漢字」 →P317[資]「一年生で学習した音訓」 ◇言葉の意味がわからないときは、国語辞典等で調べさせるとよい。 ◇P255「[練習] 小学校六年生で学習した漢字」にあわせて取り組み、これまでに学習した漢字の書き取りをさせてもよい。	漢字を読んでいる。また、学年別漢字配当表の漢字のうち900字程度の漢字を書き、文や文章の中で使っている。(1)イ) →小学校で学習した漢字の熟語を使って文章を作り、中学校で学習する漢字の読み方について理解している。 【態】学習課題に沿って、積極的に漢字を読んだり書いたりしようとしている。
6月	文法への扉 1 言葉のまとまりを考えよう 2 時間 ◎単語の類別について理解することができる。(知・技(1)エ) ▼言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(主体的に学習に取り組む態度)	1-2	1 P59の導入や教材文を読み、言葉のまとまりについて考える。 ・例文を音読し、間を取った箇所を確認する。 2 P238-241文法1「言葉の単位」を読む。 ・「文法とは」を読み、文法の定義を理解する。 ・「言葉の単位」を読み、「文章・談話」「段落」「文」「文節」「単語」の違いと各々の特徴を理解する。 ・下段の練習問題に取り組み、理解したことを確認する。 ・P239「読むことに生かす」を読み、段落に着目して読むことで、説明的な文章の内容や構成が捉えやすくなることを理解する。	【知・技】単語の類別について理解している。(1)エ) →文法の必要性を知り、言葉の単位とその働きについて理解している。 【態】単語の類別を理解するために、今までの学習を生かして、積極的にその前提となる言葉の単位について理解しようとしている。

情報社会を生きる				
6月	情報を集めよう 情報を読み取ろう 情報を引用しよう 3 時間 (読①書②) ◎比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかた、引用のしかたや出典の示し方について理解を深め、それらを使うことができる。(知・技(2)イ) ◎目的や意図に応じて、日常生活の中から題材を決め、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすることができる。(思・判・表B(1)ア) ◎目的に応じて必要な情報に着目して要約し、内容を解釈することができる。(思・判・表C(1)ウ) ▼言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(主体的に学習に取り組む態度) ★本や資料から文章や図表などを引用して説明したり記録したりするなど、事実やそれを基に考えたことを書く。(思・判・表B(2)ア)	1	リード文や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 調べる内容を絞り込む ・言葉の何について調べるかを焦点化する。 ◇調べたいことを「問い」の形にさせるとよい。 2 調べ方を考え、情報を集める ・P61下段「やってみよう」に示された項目の調べ方を考え、その方法で有効な情報が得られるかどうか、学校図書館で確かめる。 ◇本の探し方や、本や事典、新聞から情報を集める方法を理解させる。 ◇インターネット検索の方法と留意点を確認させる。 ・自分が決めたテーマについて、どのように調べるのがよいかを考え、実際に情報を集める。	【知・技】比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかた、引用のしかたや出典の示し方について理解を深め、それらを使っている。(2)イ) →グラフや文章の中の情報を関連づけて情報を整理し、引用のしかたや出典の示し方を理解している。 【思・判・表】 ・「書くこと」において、目的や意図に応じて、日常生活の中から題材を決め、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア) →調べたいテーマについて、本やインターネットを活用して情報を集め、整理し、伝えたいことを明らかにして書いている。 ・「読むこと」において、目的に応じて必要な情報に着目して要約し、内容を解釈している。(C(1)ウ) →必要な情報に着目して要約し、内容を理解している。 【態】引用のしかたや出典の示し方について積極的に理解を深め、学習課題に沿ってそれらを使おうとしている。
		2	3 情報を読み取る ・グラフの種類や特徴、情報を読み取る方法を理解し、グラフを読むときの留意点を確認する。 ・P63「やってみよう」で、複数のグラフや文章の中の情報を関連づけながら読み解く。	
		3	4 情報の適切な引用のしかたを考える。 ・集めた情報を適切に引用しながら、わかったことや考えたことをまとめる。 ・出典の示し方に注意して「参考文献」を書く。 ◇P64の資料 [A]・[B] とP65を参考にさせる。 5 著作権について知る。 ・著作権の定義や、著作者の許可が必要ない場合について確認する。 6 学習を振り返る。 ・興味・関心のあるテーマを挙げ、どんな情報の調	

	★学校図書館などを利用し、多様な情報を得て、考えたことなどを報告したり資料にまとめる。(思・判・表C(2)ウ)		べ方が適しているかを考える。 ・どんな情報を伝えるのに、どんなグラフが示されているか、本や新聞から探して話し合う。	
3 言葉に立ち止まる				
7月	詩の世界 【書く】詩を作ろう 3時間(読②書①) ◎事象や行為、心情を表す語句の量を増すと同時に、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)ウ) ◎比喩、反復、倒置、体言止めなどの表現の技法を理解し使うことができる。(知・技(1)オ) ◎文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えることができる。(思・判・表C(1)エ) ◎根拠を明確にしなが、自分の考えが伝わる文章になるように工夫することができる。(思・判・表B(1)ウ) ▼言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(主体的に学習に取り組む態度) ★詩や解説文を読み、考えたことなどを記録したり伝え合ったりする。(思・判・表C(2)イ) ★詩を創作し、感じたことや考えたことを書く。(思・判・表B(2)ウ)	1-2	「目標」や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 作品を音読する。 ・新出漢字を調べる。 2 詩を読んで、感じたことを交流する。 ・わからないと思った事柄や言葉。(学習①-1) ・美しさやおもしろさを感じた事柄や言葉。(学習①-2) 3 描かれた情景や表現の効果について話し合う。 ・それぞれの詩に描かれている情景。(学習②-1) ・それぞれの詩で、最も印象に残った表現とその効果。(学習②-2) ◇友達の見解との共通点や相違点を確認させる。 4 詩のよさを発表する。(学習③) ・三編の中で最も心に響いた詩はどれか。どんなところによさを感じたのか、発表する。 5 三編の詩の表現を参考にして、詩を作る。 ・例を参考に題材を考える。 ・印象に残った表現や例を参考にして、詩を書く。→P224「さまざまな表現技法」 ・読み合って感想を伝え合う。 6 学習を振り返る。 ・詩を読み深めるためには、どんなことに注意して読むといいか、「詩を読み深めるためには」に続くように書く。 ・詩を作るときに、表現で工夫したこととその効果をグループで共有する。	【知・技】 ・事象や行為、心情を表す語句の量を増すと同時に、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。(1)ウ)→詩の中の語句の意味を捉えながら、語感を磨き、語彙を豊かにしている。 ・比喩、反復、倒置、体言止めなどの表現の技法を理解し使っている。(1)オ)→表現の技法を理解し、表現を工夫して詩を書いている。 【思・判・表】 ・「読むこと」において、文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えている。(C(1)エ)→詩に描かれている情景を想像し、表現の効果を考えている。 ・「書くこと」において、根拠を明確にしなが、自分の考えが伝わる文章になるように工夫している。(B(1)ウ)→自分の思いが読み手に伝わるように、言葉や表現を工夫して詩を書いている。 【態】文章の構成や展開、表現の効果について積極的に考え、学習の見通しをもって詩を創作しようとしている。
7月	比喩で広がる言葉の世界 2時間 ◎比喩などの表現の技法を理解し使うことができる。(知・技(1)オ) ◎文章の中心的部分と付加的な部分、事実と意見との関係などについて叙述を基に捉え、要旨を把握することができる。(思・判・表C(1)ア) ▼言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(主体的に学習に取り組む態度) ★説明の文章を読み、理解した	1	「目標」や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 本文を通読する。 ・注意する語句・新出漢字を調べる。 2 段落の役割を押さえて読み、内容を捉える。 ・「比喩」が、文中で、どのように定義されているかを確かめる。(学習①-1) ・筆者が挙げている比喩の二つの効果を具体例とともにまとめる。(学習①-2) →P224「さまざまな表現技法(比喩)」 3 言葉について考える。 ・P76の図を説明し、比喩を使うかどうかで、表現にどんな違いが出るかを考える。(学習②-1) ・身の回りにある「比喩の発想」が生かされた言葉を見つけて、友達に報告する。(学習②-2) 4 学習を振り返る。 ・比喩について理解し、言葉について考えを深め	【知・技】比喩などの表現の技法を理解し使っている。(1)オ)→文中で使われている比喩の文脈上の意味を理解している。 【思・判・表】「読むこと」において、文章の中心的部分と付加的な部分、事実と意見との関係などについて叙述を基に捉え、要旨を把握している。(C(1)ア)→各段落の役割を理解し、要旨を捉えている。 【態】進んで要旨を把握し、学習課題に沿って言葉について考えを深めようとしている。

	ことや考えたことを報告したり文章にまとめたりする。 (思・判・表C(2)ア)		たことをまとめる。	
7月	言葉1 指示する語句と接続する語句 2時間 ◎指示する語句と接続する語句の役割について理解を深めることができる。(知・技(1)エ) ▼言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(主体的に学習に取り組む態度)	1-2	1 導入の課題に取り組み、指示する語句や接続する語句について関心をもつ。 2 指示する語句について理解する。 ・教科書の表を基に、指示する語句(「こそあど言葉」)の種類を把握する。 ・例を基に、前後の文をつなぐ働きを理解する。 3 接続する語句について理解する。 ・教科書の表を基に、接続する語句の働きによる分類を理解する。 ・例を基に、接続する語句には書き手や話し手の気持ちが反映されることを知る。 4 学習したことを日常につなぐ。 ・「読むことに生かす」を読み、指示する語句や接続する語句に着目することで、文章の展開や構成をつかむ手がかりになることを理解する。	【知・技】指示する語句と接続する語句の役割について理解を深めている。((1)エ) →指示する語句と接続する語句の役割を理解している。 【態】今までの学習を生かして、積極的に指示する語句と接続する語句の役割について理解を深めようとしている。
7月	言葉を集めよう もっと「伝わる」表現を目ざして 1時間 ◎事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)ウ) ▼言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(主体的に学習に取り組む態度)	1	1 学習の目的を理解する。 ・リード文を読み、豊かに表現するためには、語句の量を増やす必要があることを理解する。 2 友達に紹介したいものを決める。 3 観点を決めて、言葉を集める。 ・P80のマッピングを参考に、観点を決め、思いっく言葉を挙げる。 ・挙げた言葉について、似た意味の言葉や修飾する言葉を考える。 ◇国語辞典や類語辞典を活用させるとよい。 4 100字程度で紹介文を書く。 ・読み手が、そのよさや様子を具体的に想像できるように、言葉の選び方を工夫して書く。 →P81「紹介文の例」「程度を表す言葉」 →P300【資】「語彙を豊かに」 5 学習を振り返る。 ・読み手に伝えるときに、どんな表現が具体的に想像しやすかったか。「言葉の選び方」について気づいたことを話し合う。	【知・技】事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。((1)ウ) →言葉を集め、似た意味の言葉や修飾する言葉を考え、伝えたいことに合う的確な言葉を探している。 【態】今までの学習を生かして、積極的に事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、話や文章の中で使おうとしている。

読書生活を豊かに

7月	読書を楽しむ 1時間 ◎読書が、知識や情報を得たり、自分の考えを広げたりすることに役立つことを理解することができる。(知・技(3)オ) ▼言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(主体的に学習に取り組む態度)	1	1 教材文を通読し、さまざまな読書活動を知る。 ・本を読んだ後、記録をしたり、友達に紹介したりする学習活動について理解する。 2 「ポップ作り」、「読書掲示板」、「読書記録」の中から、夏休みに行う活動を選ぶ。 →P20「続けてみよう」 ◇学校や地域の状況に応じて、指導者が活動を決めてもよい。 3 活動の内容に沿って、見通しを立てる。 ・ポップは、読書記録を基に本を決め、必要な情報を選択して、本の魅力が伝わるように紹介する。 ・読書掲示板は、選んだ生徒どうして、感想を交流する本を一冊決めて感想を付箋などに書く。 ・読書記録は記録のしかたを確認する。 ◇教材文を基に、手順やポイントなどを示した活動計画書を用意し、配布するとよい。	【知・技】読書が、知識や情報を得たり、自分の考えを広げたりすることに役立つことを理解している。((3)オ) →さまざまな読書の楽しみ方について理解し、読書が知識を得たり、新しいものの見方や考え方を知ったり、自分の考えを広げたりすることに役立っていることを理解している。 【態】読書が、知識や情報を得たり、自分の考えを広げたりすることに役立つことを進んで理解し、今までの学習を生かして本の魅力や感想を伝え合おうとしている。
----	---	---	---	--

			4 ポップ、読書掲示板用の感想、読書記録を提出する。 ・それぞれの活動で作成したポップや感想、記録した読書ノートなどを夏休み明けに提出する。 ◇完成物は、教室や学校図書館に展示するとよい。 ◇次時の「本の中の中学生」と合わせて指導することも考えられる。 →P84「本の中の中学生」 →P190「考える人になろう」 →P90, 194「本の世界を広げよう」	
7月	本の中の中学生 あと少し、もう少し 西の魔女が死んだ ブラインドの向こうに見える光 読書案内 本の世界を広げよう 読書コラム 本との出会い 1 時間 ◎読書が、知識や情報を得たり、自分の考えを広げたりすることに役立つことを理解することができる。(知・技(3)オ) ◎文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにすることができる。(思・判・表C(1)オ) ▼言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。(主体的に学習に取り組む態度) ★学校図書館などを利用し、多様な情報を得て、考えたことなどを報告したり資料にまとめたりする。(思・判・表C(2)ウ)	1	リード文や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1「本の中の中学生」の三編の作品を読む。 ・考えていることや悩んでいることが似ている登場人物、友達になれそうな登場人物はいないか、探しながら読む。 ・「本の中の中学生」の三編の作品の中から気に入った作品とその理由を友達と共有する。 ◇学校図書館や地域の図書館に行つて続きを読んだり、同じ作者が書いた別の作品や、他の作家が書いた同じテーマの本を読んだりするなど、実際に本を手取るように促すとよい。 2 学校図書館などを利用して、「本の中の中学生」というテーマで一冊選び、推薦文を書く。 ・中学生が登場する小説や実在の人物の中学時代を描いたノンフィクションなどから一冊選ぶ。 ◇なかなか一冊を選べない生徒には、教科書の三編の続きを読ませ、推薦文を書かせてもよい。 ・展示したり、スピーチをしたりして、感想を付箋に書き、友達と感想を交流する。 →P92「私の一冊」 →P93「本との出会い」 ◇前時の「読書を楽しむ」と合わせて指導することも考えられる。	【知・技】読書が、知識や情報を得たり、自分の考えを広げたりすることに役立つことを理解している。(3)オ) →読書が、知識を得たり、新しいものの見方や考え方を知ったり、自分の考えを広げたりすることに役立っていることを理解している。 【思・判・表】「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにしている。(C(1)オ) →文章を読み、理解したことを基に、自分の考えを形成している。 【態】文章を読んで理解したことに基づいて、積極的に自分の考えを確かなものにし、学習課題に沿って本を読んで考えたことを伝え合おうとしている。
7月	季節のしおり 夏 ・事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)ウ) ▼言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。(主体的に学習に取り組む態度)	-	・風にまつわる言葉や夏の情景を詠んだ詩、俳句を味わい、伝統的な言語文化に親しむ。 ◇P68「詩の世界」、P186「助言を自分の文章に生かそう」、P220「構成や描写を工夫して書こう」などの資料として用いてもよい。 ◇夏をテーマにした他の詩歌を探し、交流することもできる。	【知・技】事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。(1)ウ) →夏に関わる言葉にふれ、それぞれの夏の情景を想像している。 【態】伝統的な言語文化に関するこれまでの学習を生かして、積極的に語感を磨き、言語文化を大切にしようとしている。
	2 多様な視点から			

6月	生物が記録する科学 —バイオロギングの可能性 4 時間 ◎文章の構成や、事実と考えの示し方に着目して、説明のしかたの特徴を捉える。(読(1)イ・ウ) ◎説明されている内容を的確に捉え、ものの見方や考え方を広げる。(読(1)エ) ★説明を読み、内容や表現のしかたについて自分の考えを述べる。(読(2)イ) ○文章に用いられている漢字を正しく読み、小学校で学習した漢字に書き慣れる。(伝国(1)ウ(7)(4))	1 2-3 4	「目標」や「学習の見通しをもとう」などから本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 文章を序論(話題提示)・本論(具体的な説明)・結論(まとめ)の三つのまとまりに分け、文章構成を捉える。(学習1) ◇序論・本論・結論については、説明文の基礎として、1年生の学習を思い出させる。 →p13「いつも気をつけよう」 →p327^読「説明的文章を読むために」 2 本論を読み、調査によって明らかになったことを二つに分けて捉える。(学習2-1) ◇事実の説明で、図や写真が効果的に用いられていることにも着目させ、文章との関連を考えて内容を読み取らせる。 3 本論での説明のしかたの特徴を、事実と筆者の考えの示し方などに着目して捉える。(学習2-2) →p49^読「説明のしかたの特徴を捉える」 →p327^読「説明的文章を読むために」 4 筆者が「バイオロギング」のどんな点に可能性を感じているかを捉え、それに対して感じたこと、考えたことをグループで話し合う。(学習3) 5 学習を振り返る。 ・本文の説明のしかたの特徴は、どのようなものだったか。 ・筆者の研究に対する姿勢や考え方は、どのような言葉や表現、説明のしかたから強く感じられたか。 ^漢p50「漢字を確認しよう」の問題に取り組む。	【関】事実と考えの示し方などに着目して、説明のしかたの特徴を捉えようとしている。 【読】文章の構成や事実と事実に対する筆者の考えの組み合わせに着目して、説明のしかたの特徴を捉えている。 支 出来事・調査結果などの事実を説明した部分を、文末表現や、事実の説明に用いられる図や写真などに着目させて捉えさせる。 ・研究に対する筆者の考えを的確に捉え、それに対して自分の考えをもち、話し合っている。 支 筆者の考え方がまとめられている結論部分に着目させる。 【言】説明の中で用いられている語句や熟語の意味を的確に捉え、発表や話し合いの中で正確に使うことができている。 【言】問題に取り組む、漢字をおおむね正しく読み書きしている。
6月	練習 説明のしかたを工夫する 1 時間 ◎伝えたい事柄をわかりやすく伝えるために、説明のしかたを考えながら文章を書く。(書(1)イ・ウ)	1	1 身近な物の中から説明したい事柄を選ぶ。 ◇説明のしかたが学習の中心なので、「衣・食・住」など、なるべく身近な物の中から選ばせる。 2 事柄について、何を説明したいか目的を明らかにして、ふさわしい説明のしかたについて考える。 3 説明のしかたを決め、説明する内容について考える。 ・p51の例を参考に、効果的に伝える説明のしかたを決める。 ・目的を考え、集めた情報を整理し、必要な情報を選択する。 4 選んだ説明のしかたに沿って、構成を考え、文章にまとめる。 5 書いた文章から、互いの文章の工夫している点や改善すべき点について話し合う。 ◇同じテーマで、他の形態を選ばせて書かせてもよい。	【関】事柄が効果的に伝わるように、説明のしかたを自分なりに工夫しようとしている。 【書】説明する事柄の特徴を明確にし、適切な説明のしかたを選んで書いている。 支 何を伝えたいのか目的を確認させ、必要な情報を整理させる。 【言】目的に応じて文章の形態や展開が変わることに気づいている。

6月	魅力的な提案をしよう プレゼンテーションをする 5時間 ◎情報を多様な方法で集め、聞き手を想定して整理し、わかりやすい説明の構成や展開を考える。(話聞(1)ア・イ) ◎資料や機器を活用し、写真や図表などと言葉を効果的に組み合わせて説明する。(話聞(1)ウ) ★調べてわかったことや考えたことなどに基づいて説明や発表をしたり、それらを聞いて意見を述べたりする。(話聞(2)ア)	1 2-3 4 5	「目標」や「学習の見通しをもとう」などから本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 提案する相手・目的・事柄を決め、材料を集める。 ・プレゼンテーションをする相手と目的を確認し、グループで提案する事柄について話し合う。 ・日常生活、図書館、インターネットなどから情報を集める。 →p288 【資】「発想を広げる」 2 材料を整理し、進行案を作る。 ・相手の知りたいことを想定し、効果的な説明のしかたについてグループで話し合う。 ・話し合いを基に進行案を作り、効果的な説明や、資料の示しかたについて検討する。 3 進行案を基に、グループごとにプレゼンテーションを行う。→【CD】 ◇聞き手には、話の構成や話し方に注意させ、質問を考えながら聞くようにさせる。 4 各グループの説明について評価し合う。 →p55 【窓】「興味・関心を引く提案をするには」 5 学習を振り返る。 ・聞き手が関心を示すようにどんな工夫をしたか。 ・聞き手の同意や理解が得られたか。	【関】グループの話し合いに進んで参加し、聞き手や目的を意識したプレゼンテーションを行おうとしている。 【話聞】・多様な方法で情報を集め、目的や聞き手に合わせて、材料を整理して、伝えたいことが明確な構成、展開を作ることができている。 支 p54「進行案の例」の「コースの概要」など、わかりやすくするための工夫点を示す。 ・聞き手を意識し、資料や機器を活用してわかりやすく説明している。 支 グループ内で、簡単なリハーサルを行わせる。 ・構成や話し方に注意しながら発表を聞き、要点を捉え、それに対して意見を述べている。 支 p30「要点を整理して聞き取る」を参考にメモに取らせたり、聞き取る観点を書いたワークシートを用意したりする。 【言】相手や目的に応じて、話の構成や話し方を工夫している。
6月	メディアと上手に付き合うために 情報コラム 著作権について知る 2時間 ◎メディアの特徴について書かれた文章を読んだり、自分で多様なメディアから情報を集めて比較したりして、メディアとの付き合い方について自分の考えをもつ。(読(1)エ・オ) ★新聞やインターネット、学校図書館等の施設などを活用して得た情報を比較する。(読(2)ウ)	1 2	「目標」や「学習の見通しをもとう」などから本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 p56「メディアと上手に付き合うために」を通読する。 ・注意する語句・新出漢字を調べる。 ・「テレビ」「新聞」「インターネット」の特徴を、表などにまとめる。 ・筆者の「メディア」に対する考え方を読み取る。 2 p59「いろいろなメディアから得た情報を比べよう」を読み、実際に自分で社会の出来事から話題を選んで調べる。 →P286 【資】「新聞記事を比べる」 3 1, 2を踏まえ、メディアとの付き合い方について考える。 4 「著作権について知る」を通読し、著作権について知識を深める。 5 学習を振り返る。 ・「テレビ」「新聞」「インターネット」には、それぞれどのような特徴があったか。 ・メディアとの付き合い方について、どんな考えをもったか。	【関】メディアの特徴に興味をもち、付き合い方について考えたり、情報を集めたりしようとしている。 【読】さまざまなメディアの特徴を理解し、活用のしかたや注意点について、自分の考えをまとめている。 支 スポーツなど身近な話題について、事例を用意しておく。 【言】新聞やインターネットなど、メディアによって文章の形態や展開が違うことに気づいている。
言葉 1	類義語・対義語・多義語 2時間 ◎類義語と対義語、多義語の意味や用法について理解し、語感を磨き、語彙を豊かにする。(伝国(1)イ(4))	1-2	1 導入の課題に取り組み、言葉どうしの関係性に興味をもつ。 2 教材文を読み、類義語・対義語・多義語について理解する。 ・例を基にして、それぞれがどのような意味の関係にあるのかを考える。 ・「生活に生かす」を読み、語彙の増やし方について今後に生かす。 ◇p292「感情を表す言葉」を参考にしてもよい。	【関】教科書の例や身近にある類義語・対義語・多義語などに興味をもち、語彙を増やそうとしている。 【言】類義語・対義語・多義語の概念について、具体例に当てはめて理解している。 支 基礎的な語例を示し、辞書で調べさせる。

	3 言葉と向き合う		
7月	新しい短歌のために 短歌を味わう 3時間 (読②書①) ◎解説文の筆者のものの見方や考え方について、知識や体験と関連づけて自分の考えをもつ。(読(1)エ) ○短歌に示された語句の効果的な使い方や描写の効果を理解し、情景を想像しながら朗読する。(読(1)ア、伝国(1)ア(7)) ◎心情や情景が伝わるように、描写を工夫して短歌を創作する。(書(1)イ・ウ) ★短歌を読み、内容や表現のしかたについて自分の考えを述べ合う。(読(2)ア) ★表現の仕方を工夫して短歌を作る。(書(2)ア)	1 「目標」や「学習の見通しをもとう」などから本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 「新しい短歌のために」を通読し、短歌の特徴などを知るとともに、五首それぞれに込められた心情や情景を想像する。 ・注意する語句・新出漢字を調べる。 ・歌われている情景を想像しながら、短歌を声に出して読む。(学習1) ・短歌の特徴についてまとめる。(学習2-1) ・筆者のものの見方や感じ方が表れている語句や表現などの意味を考える。(学習2-2) ・五首の解説を基に、短歌の表現の工夫と効果について、確認する。 2 2 「短歌を味わう」のそれぞれの作品を読み、表現の工夫や効果、思い浮かべた情景や心情について考えを述べ合う。 ◇グループごとに一首ずつ担当したり、グループの中で各人が一首ずつ分担したりするなど、状況に合わせて活動する。 3 3 p67「短歌を創作しよう」に取り組む。 ・目にした情景、心に残る出来事や感動したことなど、題材を探して短歌を作る。 4 学習を振り返る。 ・短歌の世界に親しむためには、どのようなことに着目したか。 ・短歌で心情や情景などを伝えるためにどのような工夫をしたか。	【関】短歌の形式や表現に興味をもち、その世界に親しもうとしている。 【読】解説文に表れた筆者のものの見方や考え方について、自分の体験や読書経験と関連づけて感想をまとめている。 ・短歌を語句の使い方や描写の工夫に触れながら読み味わい、感想をまとめている。 支 小学校で学習した作品なども示しながら、歌に込められた作者の思いに近づけるようにする。 【書】学習した短歌の形式や表現の工夫を参考にして、自分の体験や思いが伝わるように短歌を作っている。 支 学校行事などに際して創作させたり、「季節」「自然」「家族」など、具体的なテーマを設けたりする。 【言】短歌に使われている言葉の語感の豊かさや、口語と文語の違いなどに気づき、受ける印象や意味の差異に気づいて作品を解釈している。
7月	言葉を比べよう 1時間 ◎似た気持ちを表す言葉を比べ、言葉のもつ意味について考え、語感を磨く。(伝国(1)イ(4)) ◎言葉の微妙な違いが効果的に伝わるように、題材や構成、描写を工夫して物語を書く。(書(1)ア・ウ)	1 1 教材文を読み、言葉の微妙な違いについて考えることの意義を確認する。 2 似た意味の言葉を使って物語を書く活動を通して、言葉の共通点や相違点を明確にし、語感を磨く。 ・p69のそれぞれの言葉の意味や用法について確認し、共通点と相違点をまとめる。 ・似た意味の言葉を一組選び、100字程度の物語を作る。 ◇教科書の例ばかりでなく、類語辞典などを参考にさせてもよい。また、p292「感情を表す言葉」も参考にできる。 ・書いた作品を友達と読み合い、言葉に対する考え方を広げる。	【関】似た気持ちを表す言葉に興味をもって、意味や用例を調べようとしている。 【書】選んだ言葉の微妙な違いが伝わるように、物語にまとめている。 支 二人一組で、類義語一組を分担して書かせ、比較させてもよい。 【言】気持ちを表す言葉の微妙な違いについて考え、語感を磨いている。 支 教科書の既習教材（1年生教材も含む）などの場面設定を借りて、該当する感情を表す語を複数の語と比較して選ばれる。
	言葉の力 2時間 ◎「言葉の本質」についての筆者の考えを読み取り、自分の考えを深める。(読(1)ア・ウ・エ) ★随筆を読み、内容や表現のしかたについて感想を交流する。(読(2)ア)	1 「目標」や「学習の見通しをもとう」などから本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 文章を通読する。 ・注意する語句・新出漢字を調べる。 2 文章を三つのまとまりに分け、それぞれの内容を要約する。(学習1) 2 3 言葉についての筆者の考えを読み取り、自分の考えをもつ。(学習2) ・「言葉の一語一語」を「桜の花びら一枚一枚」にたとえた筆者の考えを読み取る。 ・文章を読んで感じた、言葉に対する自分の考えをまとめ、友達と交流する。 4 学習を振り返る。 ・筆者の考える「言葉の本質」とはどのようなものだったか。	【関】自分や周囲の人の言葉の使い方を見つめ直し、自らの言語生活を振り返っている。 【読】挿話と筆者の考えとの関連を捉え、言葉と人との関わりについて自分の考えをまとめている。 支 1行空きのまとまりに気づかせ、言葉に対する筆者の考えが書かれた部分と挿話の書かれた部分とを押さえさせる。 【言】イメージを喚起する筆者の言葉の選び方や、比喩の巧みに学ぼうとしている。

7月	文法への扉 1 言葉をどう分ける？ 2時間 ◎活用のある自立語と活用のない自立語の性質や働きを理解する。(1年伝国(1)イ(エ))	1-2	1 p74の導入や解説を読み、単語が幾つかの観点で分類されることを確かめ、そのうち「自立語」について学ぶことを理解する。 2 p240文法1「自立語」を読み、自立語の各品詞の性質などについて理解する。 ・下段の練習問題に取り組み、理解の程度を確かめる。 ・p240下段「話すこと・聞くことに生かす」を読み、日常の会話などに文法を考えるきっかけがあることを知る。	【関】文法について関心をもち、自立語が働きのことによって分類されることを理解しようとしている。 【言】自立語の位置や語形、働きについて理解し、練習問題をおおむね正確に解いている。 支 p238「文法 一年生の復習」などで、単語の分類などについて振り返る。
	読書生活を豊かに			
7月	世界で一番の贈り物 二年一組のお薦め三十五冊 読書案内 読書コラム たまには、少し変わった本を 3時間 ◎登場人物の言動の意味や展開、表現のしかたなどに着目して読み、作品に込められたものの見方や感じ方を捉え、自分の考えを深める。(読(1)イ・ウ・エ) ◎本に関する情報を多様な方法で集め、自分の考えをまとめる。(読(1)オ) ★物語を読み、内容や表現のしかたについて感想を交流する。(読(2)ア) ★新聞やインターネット、学校図書館の施設などを活用し得た情報を比較して整理する。(読(2)ウ)	1 2-3	「目標」や「学習の見通しをもとう」などから本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 「世界で一番の贈り物」を通読する。 ・構成や場面展開の工夫に着目して、作品を味わう。 ・戦争や平和について話し合う。 ◇下記の読書案内で取り上げる本（作品）の一つとしてもよいし、読書案内の活動後に読んでもよい。 2 p84「二年一組のお薦め三十五冊」の手順で、1年生に向けた読書案内を作る。 ・読書記録などを振り返り、1年生に薦めたい本を選ぶ。 ・選んだ本に関する情報を多様な方法で集める。(入手方法・著者・本の内容や感想) ・読書案内として紹介する内容や、割り付け（レイアウト）について、クラスで話し合う。 ・各自で表現や構成を工夫して書く。 ◇p89「読書コラム」を読み、紹介のしかたの参考にさせてもよい。 ・テーマ別など、まとめ方を工夫し、全員の読書紹介を一冊にまとめる。 ・完成した読書案内を読み合う。 3 学習を振り返る。 ・本に関する情報を、どのような方法で集めたか。 ・推薦する理由が読み手に伝わるように、表現や構成についてどのような工夫をしたか。	【関】教科書掲載の物語に興味をもって読み、さらに、自分の興味関心に沿って、さまざまな本を読み広げようとしている。 【読】・作品に込められたメッセージや文学作品としてのよさについて、自分の考えをもち、友達と話し合っている。 ・自分が推薦する本の魅力が伝わるように、情報を集め、比較検討し、表現や構成を工夫している。 支 文章を引用させ、読んで心動かされた部分を強調させる。 【言】1年生に薦める読書案内ということを意識し、語句や表現を工夫している。
	季節のしおり 夏		・二十四節気の言葉や、夏の情景を描いた散文や短歌を味わい、伝統的な言語文化に親しむ。 ◇p64「短歌を味わう」、p112「気持ちを含めて書こう」、p212「表現のしかたを工夫して書こう」などの資料として用いてもよい。	
	4 関わりの中で			

9月	盆土産 5時間 ◎作品の構成や登場人物の描写に着目して、人柄や心情を読み取る。(読(1)イ) ◎作品に描かれている優しさや温かさなどを、表現に即して読み味わう。(読(1)ア) ★物語を読み、内容や表現のしかたについて感想を交流する。(読(2)ア) ○文章に用いられている漢字を正しく読み、小学校で学習した漢字に書き慣れる。(伝国(1)ウ(ア)(イ))	1 2-3 4-5	「目標」や「学習の見通しをもとう」などから本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 作品を通読する。 ・新出漢字、注意する語句を調べる。 ・三つの部分それぞれに描かれた内容をノートに整理する。(学習1) ◇場面が変わる「時」に着目させる。 2 登場人物の人柄や心情を捉える。(学習2) ・登場人物の言動や様子を描いた表現から、人柄や心情を考える。 →p105窓「時間の経過や出来事に着目する」 → p 325窓「文学的な文章を読むために」 ・方言の効果について考える。→p104言葉 ・「えびフライ」「えんびフライ」が出てくる場面から心情を考える。 3 いちばん印象に残る場面について話し合う。(学習3) ◇具体的な表現を挙げさせて、自分の考えを述べるようにさせる。 4 学習を振り返る。 ・登場人物の人柄や心情をどんな描写に着目して捉えたか。 ・どの場面のどんな表現から、優しさや温かさを感じたか。 漢p105「漢字を確認しよう」の問題に取り組む。	【関】登場人物の人柄や心情を表現に即して読み取ろうとしている。 【読】・構成や、会話文に見られる方言、登場人物の言動の描写に着目し、人柄や心情を捉えながら作品を読み味わっている。 支 「父親」の言動や様子の描写を抜き出させ、そこから受ける印象を考えさせる。 ・作品全体を通してもたらされている優しさや温かさについて、人物の描かれ方などに着目して、自分なりに考えを深め、話し合っている。 支 父親と語り手である子供との関係がどのようなものかを結末の場面を中心に考えさせる。 【言】方言が、作品に優しさや温かさをもたらしていることに気がついている。 【言】問題に取り組み、漢字をおおむね正しく読み書きしている。
9月	字のない葉書 3時間 ◎人物の言動や様子の描写に着目して、人柄や心情を捉える。(読(1)ア・イ) ◎筆者の父親への思いや家族のきずな、人間関係について自分の考えをもつ。(読(1)エ) ★随筆を読み、内容や表現のしかたについて感想を交流する。(読(2)ア)	1 2 3	「目標」や「学習の見通しをもとう」などから本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 作品を通読する。 ・新出漢字、注意する語句を調べる。 2 文章中に書かれた二つの思い出の内容をノートに整理する。(学習1) ◇必要に応じて、時代状況を解説する。1年生「大人になれなかった弟たちに……」の学習も思い出させるとよい。 3 登場人物の人柄や心情を捉える。(学習2) ・父親の言動から、その人柄や心情を捉える。P110「言葉を広げる」の課題にも関連させる。 →p110窓「心情の描き方に着目する」 → p 325窓「文学的な文章を読むために」 ・妹に対する家族の心情を、妹が置かれた状況の変化に沿って想像する。 ・なくなった父親に対して、今の「私」がどんな思いを抱いているかを考える。 4 父親に対する「私」の思いについて、共感できることや、共感しにくいと思うことを発表し合う。(学習3) 5 学習を振り返る。 ・どんな思い出から、父親のどんな人柄や心情を捉えたか。 ・父親に対する「私」の思いについて、どのようなことを考えたか。	【関】表現に込められた語り手(「私」)の思いを捉えようとしている。 【読】・言動や様子を表す表現に着目して、父親の人柄や心情を読み取っている。 支 父親の人柄は、部分的な言動のみを見るのではなく、場面の状況や他の部分と読み合わせて、総合的に捉えさせる。 ・家族のきずなに対する筆者の考え方と自分の考えを比較し、友達を話し合っている。 支 作品の中の表現を具体的に挙げながら、どう思ったのかを考えさせる。 【言】作品中の語彙の豊かさや美しさに気づき、意味や使い方を調べ、自分の表現に生かそうとしている。

9月	練習 推敲して適切な文章に直す 1 時間 ◎書いた文章を読み返して推敲し、言葉の使い方や表記に誤りがない文章にする。(書(1)エ)	1	1 教材文を読み、言葉の使い方や表記の誤りについて発表し合う。 2 p111「上達のポイント」の四つの観点を基に、教材文を書き直す。	【関】言葉の使い方や表記のしかたに関心をもち、誤りを直そうとしている。 【書】四つの観点を理解して、誤りがない文章にしている。 支 辞書を積極的に活用させる。 【言】相手に応じた言葉の使い方や表記を理解している。
	気持ちを込めて書こう 手紙を書く 4 時間 ◎伝えたい気持ちや用件を明確にし、効果的に伝わるよう表現や構成を工夫して手紙を書く。(書(1)イ・ウ) ◎手紙の書き方を知り、推敲して相手や目的に応じた手紙を書く。(書(1)エ)(伝国(1)イ(ア)) ★社会生活に必要な手紙を書く。(書(2)ウ)	1 2-3 4	「目標」や「学習の見通しをもとう」などから本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 教材文を読み、手紙の書き方を知る。 →p290[窓]「手紙の書き方」 2 相手と目的、内容を決めて下書きをする。 →p288[窓]「発想を広げる」 →p115[窓]「手紙を書くときには」 3 友達どうして下書きを読み、気づいたことを話し合う。 4 友達の助言も踏まえて推敲する。 →p111「推敲して適切な文章に直す」 5 清書して、手紙を送る。 6 手紙以外の通信手段について考える。 7 学習を振り返る。 ・伝えたい内容を明確にするために、どんな点に注意したか。 ・手紙の書き方を理解したか。	【関】手紙の特徴や書式に関心をもち、相手に応じて書こうとしている。 【書】・伝えたい内容を明確にし、効果的に伝わるように表現や構成を工夫して書いている。 ・形式を整え、推敲して相手や目的に応じて手紙を書いている。 支 伝える相手と目的を確認させる。 【言】時候の挨拶や「拝啓」「敬具」など手紙特有の言葉や、敬語を適切に使っている。
10月	モアイは語る —地球の未来 5 時間 ◎文章の構成や論の展開に着目して、筆者の主張を捉える。(読(1)イ) ◎構成や展開の工夫や筆者のものの見方や考え方について、自分の考えをもつ。(読(1)ウ・エ) ★論説を読み、内容や表現のしかたについて自分の考えを述べる。(読(2)イ) ○文章に用いられている漢字を正しく読み、小学校で学習した漢字に書き慣れる。(伝国(1)ウ(ア)(イ))	1 2-3 4 5	「目標」や「学習の見通しをもとう」などから本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 作品を通読する。 ・新出漢字、注意する語句を調べる。 2 筆者たちの研究以前にわかったこと、筆者たちの研究によってわかったことを確認する。(学習1) 3 筆者の論の展開と主張を捉える。(学習2) ・序論での問いや問題に対応した説明を確認する。 ・本論の話題に応じた小見出しを付ける。 ・イースター島と地球の状況から筆者の主張を捉える。 →p123[窓]「論の展開に着目して筆者の主張を捉える」 →p327「説明的な文章を読むために」 4 筆者の主張を読み取り、自分の考えをもつ。(学習3) →p123[言葉] ・例に挙げられた言葉を使って自分の考えをノートに書く。 5 筆者の論の展開のしかた、説得力のある述べ方の工夫について友達と話し合う。(学習3) 6 学習について振り返る。 ・筆者の述べ方には、どんな工夫があったか。 ・筆者の主張に対して、自分の知識や体験と重ねてどんなことを考えたか。 [漢]p124「漢字を確認しよう」の問題に取り組む。	【関】筆者が主張していることを読み取ろうとしている。 【読】・序論の問題提起に対応した本論の説明や、本論を受けた結論など、論の展開を押さえて、筆者の主張を捉えている。 支 序論・本論・結論の文章構成を、p13「いつも気をつけよう」、p327「説明的文章を読むために」などを参照させながら確認させる。 ・筆者の主張の説得力について自分なりの根拠を挙げて判断し、さらに、文章のテーマについて自分の体験や知識と比較して考えを深めている。 支 イースター島の事例と、結論部分の筆者の主張との対応について、結び付くかどうか、結び付きの程度はどうかを考えさせる。 【言】環境問題を論じるときに使われる漢語を本文から探し、自分の文章の中で使っている。 【言】問題に取り組み、漢字をおおむね正しく読み書きしている。

10月	言葉2 敬語 1時間 ◎敬語の働きについて理解する。(伝国(1)イ(7))	1	1 導入の例文を読み、敬語の使い方について考える。 2 教材文を読み、敬語の働きや種類について理解する。 3 教材文を読み、敬語の組み合わせについて考える。 ・p127「生活に生かす」を読み、実際の生活場면을想起し、適切な組み合わせについて考える。	【関】敬語の働きや種類について関心を持ち、理解しようとしている。 【言】敬語の働きについて理解している。 支 ロールプレーイングなどで、さまざまなケースを想定して実演させる。
10月	漢字2 同じ訓・同じ音をもつ漢字 1時間 ◎同訓異字や同音異義語などの意味・用法の違いについて理解する。(伝国(1)イ(4)・ウ(7)(4))	1	1 教材文を読み、同じ訓をもつ漢字の文脈に合わせた使い分けを考える。 2 教材文を読み、同音異義語について理解する。 3 練習問題に取り組む。 ・p129「練習問題」を適宜活用する。 ◇辞書などを使って、生徒自身に問題を作らせて、解き合ってみることも効果的である。	【関】漢字の訓や音に関心をもち、同じ訓の漢字や同音異義語に対する理解を深めようとしている。 【言】文脈や言葉の意味に注意して、同じ訓をもつ漢字、同音異義語の使い分けができています。 支 学年別配当漢字（小学校で学習する漢字）を用いた練習問題を解かせる。
	季節のしおり 秋		・二十四節気の言葉や、秋の情景を詠んだ和歌・短歌や俳句などを味わい、伝統的な言語文化に親しむ。 ◇p64「短歌を味わう」、p112「気持ちを込めて書こう」、p212「表現のしかたを工夫して書こう」などの資料として用いてもよい。	
	5 いにしえの心を訪ねる			
10月	音読を楽しもう 平家物語 1時間 ◎朗読して、古典の世界を楽しむ。(伝国(1)ア(7))	1	1 「平家物語」の主な内容と文章の特徴を知る。 2 教材文を朗読（音読）、あるいは暗唱する。	【関】歴史的仮名遣いや漢語に関心を持ち、朗読しようとしている。 【言】歴史的仮名遣いやリズムなど作品の特徴を捉えて朗読している。
	扇の的 ―「平家物語」から 3時間 ◎古典の文章を朗読して、その独特の調子やリズムに慣れ、作品を読み味わう。(伝国(1)ア(7)(4)) ◎登場人物の言動から心情を理解し、作品に描かれたものの見方や考え方について自分の考えをもつ。(読(1)イ・エ)	1 2 3	「目標」や「学習の見通しをもとう」などから本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 全文を通読する。 ・新出漢字、注意する語句を調べる。 2 「平家物語」の冒頭部分p132や、「扇の的」を繰り返し朗読する。(学習1) 3 場面の状況と登場人物の心情を考える。(学習2) ・与一と見守る人々の心情を、それぞれの言動から考え、話し合う。 ◇P140-141の図版から、おおまかな時代背景などを捉えさせるとよい。 4 「平家物語」に描かれたものの見方や考え方について、自分の考えをもつ。(学習3) ◇P138「弓流し」の場面も合わせて読み、武士の考え方などを捉えさせる。 5 学習を振り返る。 ・古典の文章の調子やリズムについて、どんなことを感じたか。 ・登場人物の行動や心情から、どのようなものを見方や考え方を読み取ったか。	【関】作品独特の調子やリズムを意識して朗読しようとしている。 【読】登場人物の言動から心情を考え、そこに表れた価値観などに対して、自分なりの考えをもち、意見を述べている。 支 扇を射るまでの与一の言動と、射た後の与一の行動、また「弓流し」の義経の行動から考えさせる。 【言】朗読を通して作品独特の言葉の調子やリズムに慣れ、作品のよさを見つけている。

10月	仁和寺にある法師－「徒然草」から 3時間（読・伝国②書①） ◎古典の文章を朗読して表現に慣れ、作品を読み味わう。（伝国(1)ア(7)(イ)） ◎登場人物に対する作者の考えを述べた部分から、ものの見方や考え方について自分の考えをもつ。（読(1)イ・エ） ◎古典の登場人物の人物像について、伝えたい事柄を明確にし、文章の構成を工夫して書く。（書(1)イ） ○古典の登場人物の人物像について書いた文章を読み合い、自分の考えを広げる。（書(1)オ） ★多様な考えができる事柄について、立場を決めて意見を書く。（書(2)イ）	1 2 3	「目標」や「学習の見通しをもとう」などから本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 全文を通読する。 ・新出漢字、注意する語句を調べる。 2 「徒然草」の冒頭部分と、「仁和寺にある法師」の原文を繰り返し朗読する。（学習1） →p144「係り結び」 3 登場人物の行動を捉え、作者のものの見方を考える。（学習2） ・法師が勘違いしてしまった原因を原文やp143の図を使って説明する。 ・作者が法師の言動について考えた内容を原文から捉える。 4 法師の人物像を根拠を明らかにして、話し合う。（学習3） →p278[資]「古典の世界を広げる」 5 「平家物語」「徒然草」で学習した登場人物の人物論を300字程度で書く。 6 学習を振り返る。 ・どんなことに気をつけて文章を朗読したか。 ・作品のものの見方・考え方について、どんなことを感じたか。	【関】 作品独特の調子やリズムを意識して朗読しようとしている。 【読】 登場人物の行動を通して述べられた作者の考えについて自分の考えをもち、述べている。 支 文章が、法師のエピソードの部分と作者の考えの部分から構成されていることに気づかせ、作者の考えに着目させる。 【書】 選んだ登場人物の特徴がわかる言動を具体的に挙げて、文章構成を工夫して自分の考えを書いている。 支 p145の例の構成を参考にして意見を書かせる。 【言】 朗読を通して作品独特の調子やリズムに慣れ、作品のよさを見つけている。
	漢詩の風景 3時間 ◎漢詩特有の言葉遣いや調子を生かして読み味わう。（伝国(1)ア(7)(イ)） ◎漢詩に歌われている情景や人物の心情を想像し自分の考えをまとめる。（読(1)ウ）	1 2 3	「目標」や「学習の見通しをもとう」などから本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 全文を通読する。 ・新出漢字、注意する語句を調べる。 2 三編の漢詩を繰り返し朗読する。（学習1） ・漢詩特有の言葉遣いや調子に着目する。 3 漢詩に描かれた季節、情景、作者の心情を読み味わう。（学習2） ・解説文を参考に、季節、情景、作者の心情をノートにまとめる。 4 三編の漢詩から自分の好きな一編を選び、その理由を述べる。（学習3） ・根拠となる表現や句を引用して述べる。 5 学習を振り返る。 ・漢詩特有の言葉遣いや調子はどんなところに表れていたか。 ・それぞれの漢詩から、どんな情景や心情を読み取ったか。	【関】 漢詩特有の言葉遣いや調子に関心を持ち、描かれた内容を考えようとしている。 【読】 それぞれの漢詩に歌われている季節、情景や心情を、表現に基づいて想像し、まとめている。 支 漢詩の表現と解説文を対応させる。 【言】 朗読を通して作品独特の調子やリズムに慣れ、作品のよさを見つけている。
6	論理を捉えて			

11月	君は「最後の晩餐」を知っているか 4 時間 ◎語句や表現の工夫に着目して、筆者のものの見方や考え方を読み取る。(読(1)ア・イ・ウ) ◎筆者の絵画の見方について、自分の知識や体験と関連づけて考えをもつ。(読(1)エ) ★評論を読み、内容や表現のしかたについて自分の考えを述べる。(読(2)イ) ○文章に用いられている漢字を正しく読み、小学校で学習した漢字に書き慣れる。(伝国(1)ウ(7)(イ))	1 2-3 4	「目標」や「学習の見通しをもとう」などから本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 作品を通読する。 ・新出漢字、注意する語句を調べる。 ・初めて知ったことや興味をもったことを書き出す。(学習1) ・「評論」という文章の形態について確認する。 →p163^密「評論を読む」 2 「最後の晩餐」に使われている「解剖学」「遠近法」「明暗法」について説明する。(学習2) 3 筆者が「最後の晩餐」を「かっこいい。」と思った理由を説明する。(学習2) ◇「かっこいい」のほか、文末表現も「だろう」「ではないか」など、主観的な表現が多く用いられていることにも注意させ、使われている語句と「評論」という文章の形態との関係も意識させる。 →p327^資「説明的文章を読むために」 4 筆者の絵画の見方や感じ方に対して、自分の考えを述べる。(学習3) 5 学習を振り返る。 ・どんな言葉に着目して筆者の考え方を捉えたか。 ・筆者の絵画の見方について、自分はどうか考えたか。 ^漢p163「漢字を確認しよう」の問題に取り組む。	【関】評論という文章の種類について興味をもち、筆者の絵画の見方について読み取ろうとしている。 【読】語句や表現の工夫に着目して読み、筆者のものの見方や考え方を読み取っている。 支 キーワードである「かっこいい」が、何に対して使われているのかを文脈に沿って整理させる。 ・筆者の絵画の見方について、自分の考えや感想をもっている。 支 自分が美術館や書籍などで芸術作品を見るとき、どんな観点で見ているのかを振り返らせ、筆者の見方と比較させる。 【言】事実や出来事を正確に伝える説明や記録と異なり、評論が対象の価値などについて自分の考えを伝えるための文章の形態であることを理解している。 【言】問題に取り組む、漢字をおおむね正しく読み書きしている。
	練習 相手の考えを踏まえて発言する 1 時間 ◎相手の立場を尊重し、自分の意見と比較しながら発言する。(話聞(1)エ・オ)	1	1 「中学生に携帯電話は必要なのか」を読み、自分の考えをまとめる。→^{CD} ・p165の1、2の例を参考に同意と反論の意見を考える。 2 「上達のポイント」を読み、考えた自分の意見を述べる練習をする。 ◇「つまり」「今の話をまとめると」などの表現も、話し合いなどで効果のある典型的な表現として覚えさせるとよい。	【関】相手の考えをしっかりと聞き、発言しようとしている。 【話聞】相手の考えを踏まえて自分の意見を述べている。 支 「上達のポイント」を読ませ、その方法を使わせる。 【言】適切な話し言葉や敬語を使っている。

11月	話し合って考えを広げよう パネルディスカッションをする 5時間 ◎社会生活の中から話題を決め、異なる立場や考えを想定して考えをまとめ、論理的な構成を考えて話す。(話聞(1)ア・イ) ◎相手の意見や考えを尊重しながら目的に沿って討論し、互いの発言を比較・検討しながら自分の考えを広げる。(話聞(1)エ・オ) ★社会生活の中の話題について、司会や提案者などを立てて討論を行う。(話聞(2)イ)	1-2 「目標」や「学習の見通しをもとう」などから本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 パネルディスカッションについて知り、話し合うテーマを決める。 →p288^窓「発想を広げる」 ◇議論を通し、自分やグループの考えを深めることが目的であることを押さえる。 2 テーマに対する立場を考え、立場ごとにグループに分かれる。 3 グループで説得力のある意見と根拠を考える。 ◇異論、反論を想定しながら考えることで、自分たちの意見や根拠に説得力が増すことに気づかせる。 3-4 4 進行計画を立て、パネルディスカッションをする。 →^{CD} ◇フロアにも聞き取りメモなどを取らせ、話し合いの参加者であることを意識させる。 →p170^窓「話し合って考えを広げるためには」 →p165「相手の考えを踏まえて発言する」 →p30「要点を整理して聞き取る」 5 討論を振り返り、次への課題を見つける。 5 6 学習を振り返る。 ・役割に応じて、協力して討論を進めたか。 ・意見について多角的に検討し、考えを広げたか。	【関】テーマについて自分の考えをまとめ、討論に参加し、さらに考えを深めようとしている。 【話聞】・異なる立場を想定して考えをまとめ、説得力のある根拠を述べている。 支 根拠は、初めから一つに絞らず、できるだけ挙げ、その中から最も説得力の高いものを選ばせる。 ・相手の意見の要点を自分の考えと比べながら聞くことができる。 支 聞き取りメモを取らせ、相手の根拠と意見を分けて整理させる。 【言】テーマに沿って話し合いを深める目的になかった話のしかたや表現を用いている。
11月	練習 意見文の説得力を考える 1時間 ◎伝えたい内容を明確にし、相手に効果的に伝わるよう根拠の示し方を工夫して書く。(書(1)イ・ウ)	1 1 A Bの教材文を読み、説得力のある方を選び、その理由を考える。 2 「上達のポイント」を読み、根拠の示し方や反論を踏まえている点に気づく。 ◇教材文のテーマで、「上達のポイント」の三つの項目に注意して文章を書いてもよい。	【関】意見文における説得力の必要性を理解し、そのための工夫を文章の中から見つけようとしている。 【書】意見を効果的に伝えるための要素として、根拠と反論に対する考えの示し方を理解している。 支 統計調査のほか、どのようなことが、考えを支える根拠となるのか、例を挙げさせる。 【言】相手や目的に応じて、話や文章の形態に違いがあることを理解している。
12月	根拠を明確にして意見を書こう 意見文を書く 5時間 ◎社会生活の中から課題を決めて、適した情報を集めて自分の考えをもつ。(書(1)ア・イ) ◎自分の意見と根拠を明確にして、効果的に伝わるよう文章構成などを工夫して書く。(書(1)ウ・エ) ★多様な考えができる事柄について、立場を決めて意見を書く。(書(2)イ)	1 「目標」や「学習の見通しをもとう」などから本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 社会生活の中から課題を決め、自分の意見を明らかにする。 →p34「多様な方法で情報を集めよう」 →p288^窓「発想を広げる」 2-3 2 自分の意見とそれを支える根拠を明らかにする。 4-5 3 構成を考え、下書きを書く。 ・反論を想定した意見も書く。 →p171「意見文の説得力を考える」 →p174^窓「明確な意見文を書くには」 4 意見文を清書し、読み合い、助言し合う。 5 学習を振り返る。 ・自分の意見をもつことができたか。 ・説得力のある意見文となるように工夫したか。	【関】自分の立場や意見が伝わるように、根拠を明らかにして書こうとしている。 【書】自分の立場を決め、根拠を明らかにして、構成を工夫して文章を書いている。 支 実際に文章にするとときは、根拠は数多く挙げるのではなく、最も強く意見を支えるものに絞って挙げさせる。 【言】意見文にふさわしい論の展開や、語句の使い方などに気づいている。

12月	落葉松 1 時間 ◎表現のしかたに注意して、自分の考えをもちながら読む。 (読(1)ア・ウ) ★詩を読み、内容や表現のしかたについて感想を交流する、 (読(2)ア)	1	「目標」や「学習の見通しをもとう」などから本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 詩を通読する。 ・新出漢字、注意する語句を調べる。 2 表現技法や連の構成などの表現のしかたに着目し、情景や作者の感じ方を捉える。 3 グループで表現のしかたについて感じたことを話し合う。 4 学習を振り返る。 ・表現や構成にどのような特徴があったか。	【関】 表現のしかたに着目して詩を読もうとしている。 【読】 表現のしかたや、作者のものの見方や感じ方について自分なりの感想をもっている。 支 「見き」「さびしかりけり」などの文語の意味を示す。 【言】 反復など、表現技法について理解している。
	文法への扉 2 走る。走らない。走ろうよ。 2 時間 ◎用言の活用について理解する。(伝国(1)イ(ㄱ))	1 2	1 教材文を読み、動詞の形の変化について考える。 2 p244文法2「用言の活用」で、動詞の活用について考える。 3 p244文法2「用言の活用」で、形容詞・形容動詞の活用について考える。	【関】 規則的な語形変化に関心をもち、用言の活用を理解しようとしている。 【言】 活用形の種類と用言の活用の種類を理解している。 支 具体的な語例を挙げて、活用表を完成させる練習をする。
読書に親しむ				
12月	小さな町のラジオ発 —臨時災害放送局「りんごラジオ」 読書案内 1 時間 ◎多様な方法で選んだ本や文章のものの見方や考え方について、知識や体験と関連付けて自分の考えをもつ。(読(1)エ・オ)	1	1 全文を通読する。 ・新出漢字、注意する語句を調べる。 2 災害時における情報の大切さについて、自分の考えをもつ。 3 筆者の「声」に対する考え方について、自分の考えをもつ。 4 p187-189の中から関心をもった本を挙げる。	【関】 文章に描かれた状況を思い浮かべながら読み、同様のテーマやジャンルなどの本に、関心を広げようとしている。 【読】 筆者のものの見方や考え方を捉え、自分の考えをもっている。 支 文章の中で最も心を動かされた部分や、考えさせられた部分を明らかにさせ、その部分を中心に考えをもたせる。 【言】 事象や出来事を伝える文章で用いられている語句に関心をもち、理解している。
	季節のしおり 冬		・二十四節気の言葉や、冬の情景を描いた散文、短歌や俳句などを味わい、伝統的な言語文化に親しむ。 ◇p64「短歌を味わう」、p112「気持ちを込めて書こう」、p212「表現のしかたを工夫して書こう」などの資料として用いてもよい。	

2月	言葉 3 方言と共通語 2 時間 ◎方言と共通語の果たす役割について理解する。(伝国(1)イ(7))	1 1 導入の「捨てる」の例から、地域による言葉の違いについて考える。 2 教材文を読み、方言と共通語について考える。 ・語句・表現・文法・発音の違い。 ・共通語の必要性。 2 3 p217「生活に生かす」を読み、方言と共通語のそれぞれの役割や特徴について意見を交流する。	【関】 方言や共通語に関心をもち、それぞれの使われ方について考えようとしている。 【言】 方言と共通語の役割や特徴について理解している。 支 地域の身近な方言、テレビ番組や書籍などから方言を探させて興味をもたせる。
	科学はあなたの中にある 3 時間 ◎抽象的な語句に注意しながら、事例と主張の関係を考えて内容を理解する。(読(1)アイ) ◎筆者の「科学」に対する考え方について、知識や体験を結び付けて考える。(読(1)エ) ★ 論説を読み、内容や表現のしかたについて自分の考えを述べる。(読(2)イ) ○文章に用いられている漢字を正しく読み、小学校で学習した漢字に書き慣れる。(伝国(1)ウ(7)(イ))	1 「目標」や「学習の見通しをもとう」などから本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 全文を通読する。 ・新出漢字、注意する語句を調べる。 2 「科学」という言葉から思い浮かぶ物事や体験を挙げる。(学習1) 2 3 「ろうそくにまつわる二つの話」についての事例をまとめる。(学習2) 4 事例と「科学とは何だろう。」という筆者の問いとの関連を話し合う。(学習2) 3 5 筆者の考え方について、知識や体験を結び付け、自分の考えをまとめる。(学習3) →p224 窓 「自分の知識や体験と比べて考える」 →p327 資 「説明的文章を読むために」 →p224 言葉 6 学習を振り返る。 ・「二つの話」と筆者の「科学」に対する見方や考え方は、どうつながっているか。 ・筆者の「科学」に対する見方や考え方について、自分はどうか考えたか。 漢 p225「漢字を確認しよう」の問題に取り組む。	【関】 自分の知識や体験と照らし合わせながら、文章を読み、考えを深めようとしている。 【読】 事例と主張の関係を捉えて、筆者の見方や考え方を理解している。 支 二つのそれぞれの事例を述べた部分、主張を述べた部分など、内容ごとに分けて要点を捉えさせようとして、関係性を考えさせる。 ・「科学」について、自分の知識や体験に結び付けて考え、交流している。 支 理科の授業の体験や、ニュースなどから得た知識などを書き出させ、筆者の主張と関連づけさせる。 【言】 文章中で使われている抽象的な語句の意味を必要に応じて調べ、自分でも使おうとしている。 【言】 問題に取り組む、漢字をおおむね正しく読み書きしている。
2月	漢字 3 送り仮名 1 時間 ◎送り仮名の付け方の基本を理解する。(伝国(1)ウ(7)(イ))	1 1 導入の例から、送り仮名が漢字の読みを明らかに示すために付けられていることを確認する。 2 教材文を読み、送り仮名の付け方の主な原則と例外について理解する。 3 p227の練習問題に取り組む。	【関】 送り仮名の付け方に関心をもち、理解しようとしている。 【言】 送り仮名の主な原則と例外について理解している。 支 「活用語尾」などについて、文法2「用言の活用」で確認させる。

3月	一年間の学びを振り返ろう 6時間（話聞③書③） ◎1年間の学習について、資料や機器などを使って簡潔に発表するとともに、互いの考えについて話し合い、自分の考えを広げる。（話聞(1)ア・ウ・エ・オ） ◎1年間の学習について材料を集め、構成や描写を工夫して書く。（書(1)ア・イ・ウ） ★考えたことに基づいて説明や発表をしたり、それについて意見を述べたりする。（話聞(2)ア）	1-2	「目標」や「学習の見通しをもとう」などから本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 1年間の学習を振り返り、必要な材料を集める。 ◇p14「続けてみよう」など授業以外での学習についても目を向けさせる。 2 報告書の内容・構成を考える。 3 グループで話し合う。 ・口頭発表のために内容を整理し、資料を作る。 ・それぞれが3分程度で発表し、質問や感想を伝え合う。→CD →p231窓「資料を効果的に使って説明するには」 →p231「アドバイスをするときの表現」 4 報告書をまとめる。 →p232「報告書の例」 5 報告書を読み、感想を伝え合う。 6 学習を振り返る。 ・発表のしかたは効果的だったか。 ・国語学習を振り返る報告書が書けたか。	【関】1年間の学習について関心をもって振り返り、より伝わりやすい発表や報告書にしようとしている。 【話聞】・資料や機器などを効果的に使い、わかりやすく説明している。 支 資料は、必要なものに絞らせる。 ・グループでの検討で出てきた友達の発表のよいところや質問などを生かして、自分の考えを広げている。 支 友達の発表を聞く観点として、材料・内容・構成などの項目を挙げておく。 【書】わかりやすい構成や説明の工夫をして報告書を書いている。 支 p232「報告書の例」に沿って、「初めに」、本論、「終わりに」などの一般的な報告書の構成を示す。 【言】発表と報告書とで、話し言葉と書き言葉の違いがあることなどを理解し、それぞれにふさわしい表現や展開を意識している。
	鍵 2時間 ◎言葉の意味を考えながら作者が詩に込めた思いを捉え、自分の考えをもつ。（読(1)ア・イ・ウ） ★詩を読み、内容や表現のしかたについて感想を交流する。（読(2)ア）	1	「目標」や「学習の見通しをもとう」などから本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 詩を通読する。 ・新出漢字、注意する語句を調べる。 2 一つ一つの言葉の意味を考えながら読み、作者の思いを捉える。 ・「鍵」についての表現から、それがどのようなものか、何を象徴しているのかを捉える。（学習1） ・詩全体から「この世」に対する作者の思いや考えを捉える。（学習2） 3 詩を読んで、自分の考えをもち、発表する。 ・自分がこれからどんな「鍵」を探し出したいかを発表し合う。（学習3） ◇詩の内容を理解した上で、それが伝わるように朗読させてもよい。 4 学習を振り返る。 ・詩の中のどんな表現に着目して、作者の思いを捉え、それに対してどんな考えをもったか。	【関】詩の内容に関心をもち、作者の思いを考えようとしている。 【読】作者が思い描いているイメージや思いを読み取り、自分の考えをもつ。 支 第四連については、難語句を調べさせたり、適宜解説を加えたりしながら、イメージを映像的に捉えさせる。 【言】作者独自の語の選択のしかたが、詩の世界を決定づけていることを理解し、自身の語彙と比較させるなどして、語感を磨き、語彙を豊かにする。